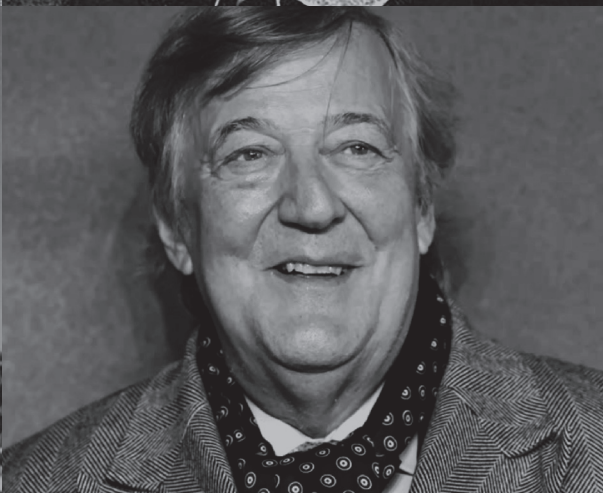
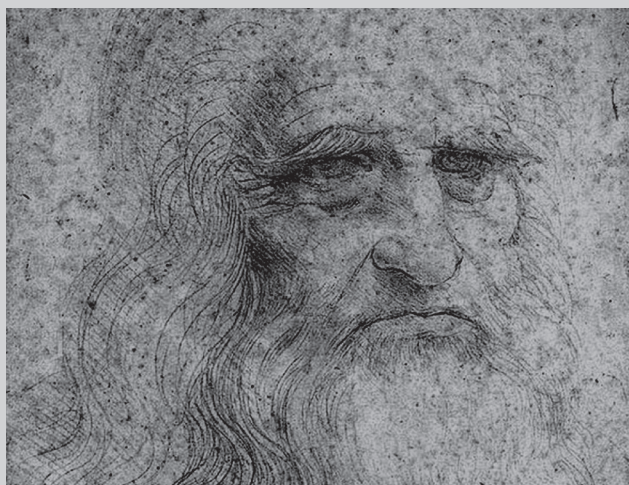




MYTHICAL GENIUSES

ダ・ヴィンチからレノン＝マッカートニーまで
“神話”に隠された真実
「天才」の危うい実像

歴史上、「天才」と称揚されてきた人物たちの実像は、私たちの抱くイメージとは異なるのかもしれない——。英国のジャーナリストのヘレン・ルイスが著書『The Genius Myth (天才神話)』で明らかにするのは、天才は生まれつきの才能だけでなく、努力や環境、さらには他者との協働によって生まれるという実態だ。レオナルド・ダ・ヴィンチやスティーブ・ジョブズといった「天才」たちの伝記を執筆してきたウォルター・アイザックソンとの対談で、「天才」という概念がもたらす危険性と有用性の両面が浮かび上がる。



インタビュアー

ウォルター・アイザックソン

デュレーン大学教授。CNNのCEOやタイム誌の編集長、アスペン研究所のCEOを経て、現在はフェロー職を務める。著名人の伝記作家としても活躍。スティーブ・ジョブズ、アルバート・アインシュタイン、ベンジャミン・フランクリン、レオナルド・ダ・ヴィンチなどを取り上げる。1952年、ニューオーリンズ生まれ。

ゲスト

ヘレン・ルイス

英国のジャーナリスト。オックスフォード大学、シティ大学でジャーナリズムを学んだ。アトランティック誌の常勤ライター。その他、ガーディアン紙、ニューヨーク・タイムズ紙など、さまざまなメディアに寄稿する。日本語で読める著書に『むずかしい女性が変わってきた——あたらしいフェミニズム史』（みすず書房）がある。



Listening Quiz

59 天才像を創り上げてきた“神話”



Walter Isaacson Your book's called *The Genius Myth*.

Let's start with that. Why is it a myth, and why in your subtitle do you call it dangerous?



Helen Lewis Well, I think the first thing I should say is

I'm not tryin' to argue that genius—you know, the idea of exceptional talent and wonderful innovations—doesn't exist. But what I do think happens is that we end up writing stories around those talents—myths, these templates, really, that we, kind of, jam real-life human stories into.

One of my most obvious examples is Shakespeare—undoubtedly an incredibly gifted playwright, but when he died, he wasn't recognized as the Shakespeare that we know today; he was, you know, a well-respected playwright. And it took a lot of people over the course of the next two centuries to build up the myth, the legend, of the Bard of Avon and to make him into the figure that he is now.



Isaacson One of those myth makers you talk about in the book is Vasari,* this wonderful biographer, especially of [the] Renaissance—of Michelangelo, Leonardo da Vinci,

Brunelleschi, I think, and others. One of the things Vasari writes about Leonardo da Vinci is he was “touched by God” with his incredible talents, as if he had been anointed. And when I wrote about Leonardo,* I'm going, “No, no, that's not right. This guy wasn't necessarily a genius different from everybody else, but he worked harder. He taught himself;

mythical:

《タイトル》神話の、理想化された

myth:

神話、寓話（ぐうわ）

subtitle:

副題、サブタイトル

exceptional:

特別に優れた、並外れた

end up doing:

結局～することになる、最後には～する羽目になる

template:

定型、テンプレート

jam A into B:

AをBに詰め込む、押し込む

real-life:

現実の、実際の

obvious:

明らかな、明白な

undoubtedly:

疑問の余地なく

gifted:

天賦の才に恵まれた

playwright:

劇作家

recognize A as B:

AをBと認める、評価する

over the course of:

～のうちに、～にわたって

figure:

人物、人物像

myth maker:

神話の作者

biographer:

伝記作家

the Renaissance:

ルネサンス

anoint:

～に聖油を塗る、聖油を塗って聖別する ▶キリスト教では、聖油を塗ることで、神から特別な役割や地位を賜り祝福を得るとされる。

go:

《話》～と言う、思う



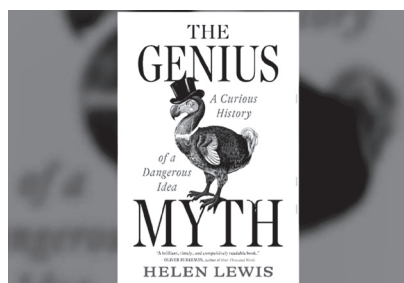
※お聞き苦しい箇所がありますが、放送時のものです。ご了承ください。

ウォルター・アイザックソン あなたの著書は『天才神話』と題されています。そこから始めましょう。それ(天才という概念)はなぜ「神話」なのか、そして副題でそれを「危険」と呼んでいるのはなぜですか。

ヘレン・ルイス そうですね、最初にお断りしておきますが、私は天才——比類ない才能や驚嘆すべき革新的功績——が存在しない、と主張しようとしているわけではありません。しかし私が思うのは、私たちは結局、そうした才能をめぐってストーリーを作り上げてしまう——神話、要はテンプレートに、等身大の人間の物語を押し込めてしまうことになるということです。

私が挙げるその最も明白な例の一人がシェイクスピアです。とてつもない才能に恵まれた劇作家であることは疑いようがありませんが、彼が亡くなった当時は、今の私たちが知るシェイクスピアとして評価されていたわけではありません。彼は、その、かなり評価の高い劇作家、かなりの評判でした。それから、2世紀という期間をかけてようやく、多くの人の手によって「エイヴォンの詩人」としての神話、つまり伝説が創り上げられ、今の人物像となったのです。

アイザックソン あなたがこの本で取り上げているそうした神話の作り手の一人に、ヴァザーリがいます。彼は優れた伝記作家で、特にルネサンス期の——ミケランジェロ、レオナルド・ダ・ヴィンチ、たしかブルネスキなどの——伝記を手掛けました。ヴァザーリがレオナルド・ダ・ヴィンチに関して書いた一節に、彼は「神に触れられた」ことで希代の才能を持ち、まるで聖別されたかのようなだったとあります。そして私がレオナルドについて書いたときに私は思ったわけです、「いや、そうじゃない。この男は必ずしも人と違う天才だったわけではない。ただ彼は人一倍努力をしたのだ。独学し、本を読み、実験を行ったのだ」と。天才とはど



英ジャーナリストのヘレン・ルイス氏による新著『天才神話』。副題にはA Curious History of a Dangerous Idea (ある危険な考えをめぐる不思議な歴史書)とある



ウィリアム・シェイクスピア(1564～1616年)は『ロミオとジュリエット』や『ハムレット』など、37(39や40とする研究もある)の戯曲を残した、英国史上最も重要とされる作家。没後400年を超えた現代においても、世界中でその作品が上演され続けている。詩人としても傑出した才能を示し、『ソネット集』は不朽の名作。

the Bard of Avon (エイヴォンの詩人)と呼ばれるのは、シェイクスピアの生地および死没地がストラットフォード・アポン・エイヴォン(Stratford-upon-Avon)であることから